

カエル調査マニュアル

カエルは、豊かな農村環境のシンボル生物の一つであると言われています。丹波篠山市の農地周辺では、たくさんのカエル（裏面参照）が見つかります。調査結果は、今後の市の環境施策に役立てますので、実施にご協力ください。

【方法】

- 畔を歩き、とび出すカエルの種類と数を圃場ごとに記録します。
- 調査にかかる時間は、1圃場あたり約10～15分です。
- 草刈り直後や気温が上がる午後はカエルが少なくなるため、避けてください。
- 見失った、種がわからなかった時などは「不明」に数を記録してください。

【場所】

- 様々な環境（山の近く・家の近く、大きい・小さいなど）で調査してみましょう。
- 草刈り直後はカエルが少なくなるので、できるだけ畔の草丈が20cm程度の田を選んでください。

【時期・時間】

- 田んぼの中干しが行われる前までに調査してください。
※多くの種類のカエルが、中干し時期前後にオタマジャクシからカエルに成長し、上陸します。
- 気温が上がらない午前中に調査してください。

【提出物】

調査票

こちらのQRコードを読み込んでいただくと、簡単に結果を報告できます。

【提出方法】

- ①専用WEBフォームから報告 ※推奨
⇒ご自宅などからパソコンやスマートフォンを使って簡単にご報告いただけます。
- ②農村環境課または各支所窓口を持参

【QRコード】
右記を読み込み

【URL】
<https://x.gd/frog7sasayama>



(引用) 全国農業協同組合連合会「さあ、はじめよう！田んぼの生きもの調査―「農」が支えるたくさんのいのち―」

■問い合わせ先 丹波篠山市 環境みらい部 農村環境課 創造農村室
TEL：079-552-5013 メールアドレス：kankyo_div@city.sasayama.hyogo.jp

<p>トノサマガエル</p> <p>田んぼでよくみられるカエル。模様や色は個体差がある。「ぐぐぐっ、ぐぐぐっ」と鳴く。</p>	
<p>ツチガエル</p> <p>ヌマガエルと混同され通称「イボガエル」と呼ばれる。腹に模様があるのでヌマガエルと区別できる。「げえっげえっげえっ」と鳴く。</p>	 
<p>ヌマガエル</p> <p>ツチガエルと混同され通称「イボガエル」と呼ばれる。腹に模様がないのでツチガエルと区別できる。「きうっきうっきうっ」と鳴く。</p>	
<p>アマガエル</p> <p>民家の周囲でもよくみられる。緑色で目の後ろに黒い線があることで簡単に区別できる。「ぎゃっぎゃっぎゃっ」と鳴く。</p>	
<p>ヤマアカガエル</p> <p>茶色のアカガエルの仲間。主に森林で生活する。背中にある側線が目の後ろで広がることでニホンアカガエルと区別できる。「にゃっにゃっ」と鳴く。</p>	  
<p>ニホンアカガエル</p> <p>茶色のアカガエルの仲間。主に森林で生活する。背中にある側線が目の後ろで広がらないことでヤマアカガエルと区別できる。「きゅっきゅっ」と鳴く。</p>	  
<p>シュレーゲルアオガエル</p> <p>緑色のアオガエルの仲間。目の後ろに黒い線がないのでアマガエルと区別できる。目のふちが黄色なのでモリアオガエルと区別できる。田んぼで産卵する。「くりり、くりり」と鳴く。</p>	 
<p>モリアオガエル</p> <p>緑色のアオガエルの仲間。目の後ろに黒い線がないのでアマガエルと区別できる。目のふちが赤色なのでシュレーゲルアオガエルと区別できる。池の上の木で産卵する。主に森林で生活する。「きりっ、きりっ」と鳴く。</p>	 

※ランクは兵庫県版レッドリスト 2017 による。ランク無⇒C⇒B⇒Aの順に絶滅のリスクが高い。